

○加工野菜収穫機(株)ニシザワ社製)にアタッチメントをつけることで収穫作業時間をより低減できます。

## 背景

- 加工・業務用ホウレンソウは近年需要が増加しているものの、国内生産量が需要に追いつかず、輸入品が大きなシェアを占めているのが現状。
- 大規模生産では大型乗用収穫機械を中核とした生産体系への移行が進んでいるが、中小規模生産では機械化が遅れており、中小規模生産向けの効率的で低コストな機械収穫体系の構築が望まれる。
- 生産状況等に合わせて、「小型コンテナ横流れ方式」と「メッシュコンテナ・ベルトコンベア方式」の2つの収穫体系を利用することができる。

## ①小型コンテナ横流れ方式

- プラスチックコンテナを利用する出荷形態に対応した収穫機械体系。
- 「小型コンテナ横流れユニット」を加工野菜収穫機(株)ニシザワ社製、MNSH-1300)に取り付けることで、コンテナ交換のための作業停止が無くなり、収穫能率が向上。(実証試験では、10a当たり労力が人力収穫と比較して約1/5まで削減。)



↑プラスチックコンテナを積載時の様子

刈り取り再生栽培技術にも応用可能

## ②メッシュコンテナ・ベルトコンベア方式

- 大型メッシュコンテナでの出荷形態に対応した収穫機械体系。
- 加工野菜収穫機(株)ニシザワ社製、MNSH-1300)の後方に「ベルトコンベアユニット」を取り付け、収穫物をユニット上部からメッシュコンテナへ搬出。
- 実証試験では10a当たり労力が人力収穫の約1/12になり、大幅な省力化が期待できる。



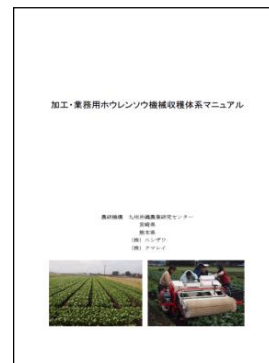
←コンベアシステムを利用した収穫の様子

(メッシュコンテナが満杯になったら刈り取り作業を停止し、追従していたホイールローダーにて圃場外へ搬出)

## 詳細情報

農研機構「加工・業務用ホウレンソウ機械収穫体系マニュアル」

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/Spinach\\_mechanical\\_harvest\\_for\\_processing.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/Spinach_mechanical_harvest_for_processing.pdf)



(連続収穫ユニットは(株)ニシザワより販売)

資料作成協力: 農研機構